

プロジェクト代表者

社会情報学科 教授 佐山 公一

研究テーマ

フェイスブック上の小樽の中国語情報は小樽滞在に結びつくか：外国人に対するソーシャルネットワーク利用動態調査

研究実績の概要

生活者の目から見た小樽の生の情報を中国語で提示し、小樽という北海道の一地域に対して台湾の中国人の訪問ニーズがどのくらいあるかを調べました。

日本語の小樽の記事を中国語に翻訳しようとしたところ、背景知識を補う表現をつけたしたり、注釈文をつけたり、ときには文章そのものを構成なおしたりしなければならぬことが頻繁にありました。翻訳に時間を要し、現在も翻訳作業を続けているため、まず日本語の分かる台湾の人に日本語でフェイスブックの記事を見てもらおうことにしました。(なお、中国語に翻訳された記事を使った調査を、現在進めています。日本語記事を使った調査、翻訳記事を使った調査の両方をまとめて公開する予定にしています。)

中国文化大学の職員と学生、計 10 名が質問紙調査に参加しました。小樽市民の書いたフェイスブックページ『おたるくらし』の日本語の記事(写真 1 枚と 800 字程度の文章)を、台湾に住む中国語母語話者で、小樽を訪問した経験のない人に、読んでいただきました。その際、記事がどのくらい面白かったかを評定してもらい、さらに、どのような点が面白かったかを自由記述してもらいました。最後に、ソーシャルメディアの利用頻度や利用目的、日本訪問経験の有無、小樽訪問経験の有無も伺いました。

分析の結果、調査参加者の面白さの評定値は総じて予想よりも高いことが分かりました。

しかし『どちらでもない』、『ややつまらない』、『つまらない』の回答も全体の 3 分の 1 ほど見られました。日本語のできる台湾の人は日本に関心が高いと思われます。それでも 3 分の 1 が肯定的でない評価をした点は、どのような記事をどのように掲載すべきか考える上で、今後の課題となりました。

自由記述を調べてみると、ガイドブックに載っていない情報を知ることができた、あるいは、思い出やノスタルジーが感じられた、などといった、日本人でかつて小樽を訪れた(あるいは小樽に住んだ)ことのある『おたるくらし』フェイスブックのレギュラー読者が読後に抱く評価と同じような、肯定的な評価が多く見られました。いくつかの記事に対しては、関連した観光情報や住所を知りたいという記述もあり、その場所に行ってみたいという意識につながっていることも伺えました。

試行的な調査で、参加者数が少なかったため断定はできませんが、小樽に魅力を感じ小樽への潜在的な観光客となる人が台湾には少なからずいることが分かりました。

プロジェクト代表者からのコメント

予備調査の結果から、記事の書き手の思い入れやメンタルな部分も台湾人たちに好意的に受け入れてもらえるかと判断できました。そこで、書き手の思い入れのこもった小樽の日本語の生活情報をそのまま中国語に翻訳する方が良く現時点では考えています。その翻訳を記事にして、中国語版の小樽観光情報のフェイスブックページ『小樽生活中文(繁体字)』(下記 URL をご覧ください)を 5 月に暫定的に開始しています。

台湾の人たちの反応は上々で、一日あたり 100 ずつ、ページへのいいねが増えています。2014 年 5 月 15 日現在合わせて 1300 ほどのページいいねを獲得しています。話題にしている人の数も 900 前後あります。中国語版でも、日本語版と同様に、今後、良い方向に展開していくのではないかと期待しています。